

・ 教員および授業の概要

① 教員名:大前 太(Futoshi Omae)

② 担当科目

- ・ 博士前期課程:北東アジア専門講義6 (比較宗教文化論)、北東アジア研究指導 I ~IV

③ 教員のプロフィール

- ・ 九州大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学
- ・ 文学博士
- ・ インド哲学専攻

④ 所属学会

日本印度學佛教學会、日本宗教学会、日本佛教學会、日本南アジア学会

⑤ 研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ インド古典哲学における認識論・論理学・言語論

⑥ 研究指導方針

- ・ 研究テーマについてはできるだけ学生の意向を尊重する。
- ・ 文献研究を中心とする。

⑦ 指導可能な研究テーマ

- ・ 比較宗教
- ・ 南アジア情勢

2. 研究業績リスト

論文

- (1) 「西周のインド観・仏教観」(『西周と日本の近代』ペリカン社所収) 2005年3月。

明治の啓蒙思想家である西周のインド観・仏教観を分析・検討したもの。

- (2) Dharmakirti as a Varnavadin, *Proceedings of the Third International Dharmakirti Conference*, Wien 1999.

7世紀前半のインドで活躍した仏教論理学派のダルマキールティにおける語の本質に関する議論を分析・検討したもの。

- (3) 「クマーリラのスポータ批判——『シュローカ・ヴァールティカ』、「スポータ」章の和訳(1) (『島根県立国際短期大学紀要』第5号) 1998年3月。

7世紀前半のインドで活躍したミーマーンサー学派のクマーリラの著作『シュローカ・ヴァールティカ』のなかで語の本質の問題を扱った「スポータ」章を詳細な解説を付して和訳したもの。

3. 学生に対するメッセージ

専門はインド古典哲学で、認識論・論理学・言語論を中心に原典研究を行っているが、宗教対立など現在の南アジア情勢にも関心がある。

担当科目である「比較宗教文化論」では、諸宗教の受容という観点からアジア諸地域の宗教文化の比較を試みる。ここで言う「アジア諸地域」は当面東南アジアを含む東アジア地域に限定する。また「諸宗教」も東アジア地域にとっての外来宗教である仏教、キリスト教、イスラーム教に限定し、東アジア発祥の宗教である儒教・道教・神道などを含めない。東アジア地域がこれら外来の宗教をどのようにして受容してきたのか。逆に、受容された諸宗教がどのように変容し、本来の姿とは異なる独特の「かたち」を作り上げていったのか、といった問題を考察したいと考えている。併せて、それぞれの性格の相違から対立を招きかねない諸宗教の共生の可能性についても考えたい。

学生 諸君には固定観念や偏見にとらわれない見方を身につけてほしいと考えている。